

27. スマガヤ

スマガヤ *Mollniopsis japonica* (Hach.) Hayata は、北は下北半島の恐山から南は鹿児島県大浪池まで、標高では八甲田山麓の酸ヶ湯、すいれん沼、八幡平国立公園の後生掛温泉～焼山間のもうせん峠と1000mから四国高知市の100mまで分布している。

兵庫県下では加古川市平荘の300mと芦屋奥池の700mの二箇所がある。

これらスマガヤの産地は本邦各地に点在し太平洋岸から日本海側にまで及んでいる。

ふつうスマガヤの生育地は酸性の比較的強い湿地で、イヌノハナヒゲ、ミカヅキグサ、モウセンゴケ、ミズゴケなどと混生していることが多い。西南日本の各地では上記のほかサギソウ、ヒメホタルイなどがまじり、東北日本の高山帯になるとツルコケモモ、ワタスゲなどが混生する。

まれには湿地でなく、日当りのよい尾根筋に群落を作っていることもあるが、これは東北及び裏日本の冬季積雪量の多い地帯である。夏季比較的乾燥する所であっても、このような所は6月下旬ごろまでは雪の残るところであり、この雪のため湿地となっているため、尾根筋に生育したものと考えられる。

本種によく似たものとして本田正次氏はコスマガヤ *M. japonica* Hayata var. *rupestris* Honda というものを認めているが、これは高山地帯に生育したため、やや小型になったものでないかと考えられる。八甲田山近くのすいれん沼で得た標本はこれでないかと思われる。またこのすぐ近くの雪渓のほとりで採集したものには、ふつうのスマガヤと共にコスマガヤと考えられるものがあった。他の地方で採集した標本と比較検討したが、あえて変種にするほどの差異は草丈以外には認められず環境による草丈の連続変異と考え同一のものとなしたい。

スマガヤの他のイネ科植物に認められない大きな特性としては、葉身と葉鞘の接合部に離層の初期のような形態が認められることであり、この外側部には軟毛が輪生しているため、他の種とは明らかに区別できる。

稈は全て葉鞘内に包まれていて、節と共に露出することがない。

28. 神戸に外来のイネ科植物2種

須磨区白川峠に市の方で白川ニュータウン建設のための宅地造成工事が行なわれている。ここに土破どめのた



Fig. 12 *chloys virgata* Swartz.

めに吹きつけ播種されたなかに、神戸地方では珍しいオヒゲシバ *Chlorys virgata* Swartz. Fig. 12 に混って *Dactyloctenium aegyptium* (L.) Beauv. Fig. 13 と *Bouteloua curtipendula* (Michx.) Torr. Fig. 14 の種が生えていた。特に多いのは後者である。

いろいろ調べてみたが、本邦に記録がないので、和名を次のようにきめることにした。

D. aegyptium (L.) Beauv. は学名よりとりエジプトガヤ。 *B. curtipendula* (Michx.) Torr. はアゼガヤモドキとする。

29. ネマガリダケの開花

一昨年(1966年)来県下の氷ノ山でネマガリダケが開花枯死しはじめていた。本年東北地方を旅行したときもよく気をつけて開花状況を見てきたが、全面開花は非常に少なかった。(筆者の歩く範囲も狭いが)ただ八幡平後生掛温泉より焼山の途中のもうせん峠の手前のアオモリトマツとの混生した所では全面開花枯死しているのが見られた。またもうせん峠では開花結実中、焼山付近



Fig. 13 *Dactyloctenium aegyptium* Beauv.



Fig. 14 *Bouteloua curtipendula* Torr.

でも開花枯死していた。

本邦でササ群落の占める割合が大きいだけに、ササの開花、枯死にもなる群落の移りかわりを調べてみたいと思っているが、なかなか1人の手では思うように仕事も進まないの、大勢の方の協力を得たいと願っている。下記のことについて調査のうえ神戸市東灘区魚崎中学校藤本義昭まで、お知らせ下されば大変幸いです。

調査地。標高。ササの種類。開花年次。開花状況（全

面開花、一部開花。群落内の占める割合、開花していない、その他）。結実状況（よく結実した、しいなが多い、その他）、発芽状況（群落内での）、（発芽したものが多く、していない、その他）。ねずみの害は。過去の開花年次。ササ群落内にある樹木名及びその推定年令。ササ群落内通路に生える植物名。その他気づかれたことがら。記録者御芳名。

編集室からのお知らせとお願い

- 規約（会誌の表紙裏）にありますように原稿は8月末日までに出してください。
- 会誌「兵庫生物」の内容が固くて魅力に乏しいというそしりを一部の人から受けましたので、一つの試みとして、この号から、なるべく多くの会員に関係の深いと思われるもの（総会・ゼミナール・自然科学博物館などの記事）を目につきやすいように前の方にしました。
- なるべく多くの人に親んでもらうために次号から「県下の学校園めぐり」（仮称）のページを設けることになり、毎号1～2校ずつ紹介したいと思いますのでふるって投稿してください。
- その他、有意義で魅力的な原稿をどしどしお寄せください。